

## セジロ及びトビイロウンカの発生と日照との関係

末 永 一  
九州農業試験場

SUBENAGA, H. On the Relationship Between the Occurrence of Sejiro & Tobihiro-leafhoppers and Sunshine-times.

筆者は従\*にセジロ及びトビイロウンカの夏期7～8月における発生は、その年の4～6月特に6月の累計日照時数の多いことと関係が深いことを指摘したが、更に羽犬塚における過去3ヶ年の調査を掲げて多少補足する。

### I. 福岡縣羽犬塚における昭和24～26年の発生状況

九州農業試験場内において同一圃場に水稻農林圃5号を栽培(7.5×8.0寸, 1株3本植)し、一定の耕種梗概によつて栽培した圃場における発生状況を調査した結果は第1表の通りである。

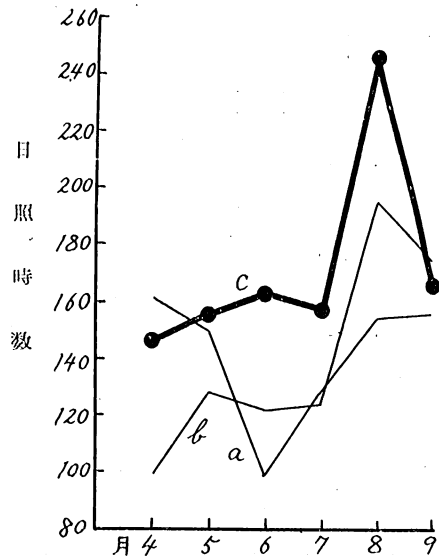
第1表 圃場の棲息数(10株当り)

年次	昭和24年		昭和25年		昭和26年	
	種別	種別	種別	種別	種別	種別
月	セジロ ウンカ	トビイロ ウンカ	セジロ ウンカ	トビイロ ウンカ	セジロ ウンカ	トビイロ ウンカ
7. 上	—	—	—	—	0	0
中	—	—	—	—	0	0
下	3	0	2	0	22	0.4
8. 上	6	2	0	2	35	32
中	20	0	14	2	1,831	—
下	24	21	10	11	1,186	1,011
9. 上	4	353	1	4	217	1,320
中	100	—	3	11	—	—
下	—	1,411	2	23	—	—
10. 上	160	1,853	0	25	—	—

### II. 日照と気温の時的消長

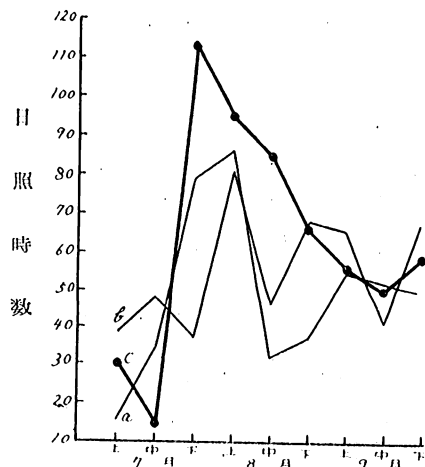
在羽犬塚九州農業試験場内露場における観測の結果は第1, 2図及び第2表の通り(日照を対照とするとき気温を切り離すことは好ましくないので茲には併せて気温についても述べる)。

\*末永 一: 游塵子の発生予察に関する研究第3報; 九州農業研究 第6号 1950.



a 24年, b 25年, c 26年

第1図 日照時数の消長

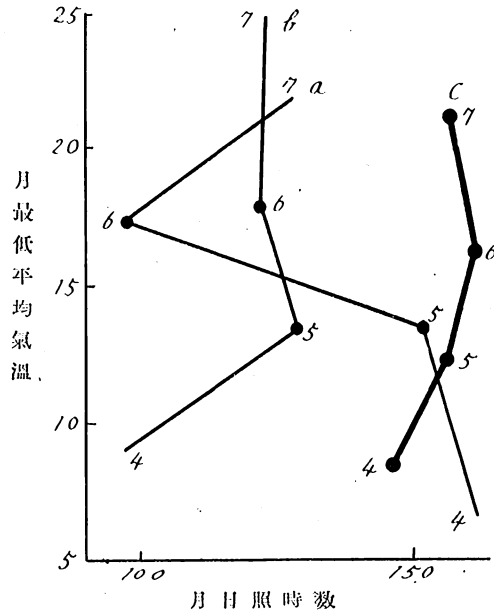


a 24年, b 25年, c 26年

第2図 日照時数の消長

第 2 表 気 温 表

年次	昭和 24 年			昭和 25 年			昭和 26 年			
	max	min	mean	max	min	mean	max	min	mean	
4.	上	17.0	2.9	10.0	17.5	7.7	12.6	17.8	8.6	13.2
	中	18.1	6.1	12.1	21.1	9.0	15.1	18.5	8.0	13.3
	下	20.5	10.4	15.5	22.1	11.6	16.9	19.8	8.9	14.4
	月平均	18.6	6.5	12.6	20.2	9.0	14.6	18.7	8.5	13.6
5.	上	22.5	11.5	17.0	23.9	13.2	18.6	22.8	11.6	17.2
	中	23.9	13.4	18.7	27.6	14.1	20.9	24.3	12.3	18.3
	下	26.0	15.6	20.8	25.1	13.0	19.1	25.9	13.9	19.9
	月平均	24.3	13.6	19.0	25.5	13.4	19.5	24.4	12.6	18.5
6.	上	26.1	17.4	21.8	25.4	15.3	20.4	26.7	14.8	20.8
	中	25.5	17.0	21.3	27.4	17.0	22.2	26.8	15.8	21.3
	下	24.6	17.9	21.3	27.4	21.1	24.2	27.1	18.2	22.7
	月平均	25.4	17.4	21.4	26.7	17.8	22.3	26.9	16.3	21.6
7.	上	26.1	19.6	22.9	29.0	22.1	25.6	27.0	20.4	23.7
	中	30.1	22.6	26.4	32.5	23.7	28.1	27.2	21.5	24.4
	下	32.9	23.1	28.0	31.9	22.6	27.3	32.8	23.1	27.9
	月平均	29.8	21.8	25.8	31.1	24.9	28.0	29.1	21.7	25.4
8.	上	33.5	23.0	28.3	33.1	23.7	28.4	33.2	24.1	28.7
	中	30.4	23.6	27.0	31.7	22.4	27.1	35.1	24.5	29.7
	下	29.2	22.7	26.0	29.7	19.9	24.8	31.0	23.0	27.0
	月平均	31.0	23.1	27.1	31.5	22.0	26.8	33.0	23.8	23.4
9.	上	30.4	20.8	25.6	31.0	21.4	26.1	27.6	17.9	22.8
	中	29.9	22.1	25.0	28.6	21.8	25.2	26.1	16.0	21.1
	下	25.3	16.6	21.0	25.1	15.0	20.1	26.5	16.1	21.3
	月平均	28.3	19.8	24.1	28.2	19.4	23.8	26.7	16.6	21.7



a 24年, b 25年, c 26年

4~7 は夫々の月を示す。

第 3 図 最低平均気温と日照時数との関係

III. 日照及び気温の時的消長と発生との関係

上に略述した発生と日照および気温の時的消長との関係を結び合せて考察すると次の様に考えられる。

1. 夏期 7~8 月のセジロおよびトビイロウンカの発生年ではその年 4~6 月特に 6 月の日照時数が多いことは既に指摘した処であるが、この 3 ヶ年の経過においても同様である。

2. 4~6 月 (特に 6 月) の日照時数が多く且つこれ等の月が比較的低温に経過する (第 3 図参照) 場合に兩種ウンカの発生が著しい。この場合セジロウンカ成虫の大量出現は平年より遅いが、トビイロウンカはセジロと時を同じくして夏期早くから成虫の大量出現を見、異常発生を招来する。

3. 夏期ウンカの発生年においては 7 月上旬乃至中旬の日照は非常に少ない、7 月前半が高温多照のときは 7~8 月にウンカの発生は少ない。

4. 9 月下旬以降の秋ウンカの発生は先行する 8 月の日照とは直接の関係はなく、8 月下旬以降 9 月の最低

平均気温が比較的高く経過する場合に著しい。

5. 昭和 24 年は 9 月下旬に、25 年は 10 月に夫々局部的に多少発生を見たが兩年とも 9 月上旬中の最低平均気温が比較的高かつたことによるものと思われる。

6. 26 年は 9 月中旬頃まで 8 月下旬乃至 9 月上旬に発生したものが著しく多く罹患加害したが、その後の数は急速に著しく減少した。このことは 9 月上旬以降の最低平均気温が前兩年より非常に低く発生に不適であつたことを示すものである。

IV. 結 び

1. 福岡縣羽犬塚附近における昭和 24~26 年の 3 ヶ年の発生をかえりみると、夏期 7~8 月のセジロおよびトビイロウンカの発生は、その年の 4~6 月が比較的低温且つ多照 (特に 6 月) で 7 月上旬旬日照の経過をとる年柄、換言すれば梅雨期が好晴寡雨で 7 月に入つて梅雨の状態となる年柄に発生が著しい。

2. 9 月下旬以降の秋ウンカの発生は叙上の経過の如何にかかわらず、8 月下旬以降 9 月の最低平均気温が比較的高い (20°C 以上) 場合に著しい。